

(権大納言と大将を兼任している人がいた。二人の妻に男の子と女の子が生まれた。二人はたいそう美しく、容貌は瓜二つであった。)

いづれもやうやう大人びたまふままに、若君はあさましようもの恥ぢをのみしたまひて、女房などに、すこし御前遠きには見え  
たまふこともなく、父殿をもうとく恥づかしくのみ思して、やうやう御文習はし、さるべきことどもなど教へきこえたまへど、思し  
もかけず、ただいと恥づかしとのみ思して、御帳のうちにのみ埋もれ入りつつ、絵かき、雛遊び、貝覆ひなどしたまふを、殿はいと  
あさましきことに思しのためはせて常にさいなみたまへば、果て果ては涙をさへこぼして、あさましようつつまじとのみ思しつ、た  
だ母上、御乳母、さらぬはむげに小さき童などにぞ見えたまふ。さらぬ女房などの、御前へも参れば、御几帳にまつはれて恥づかし

いみじとのみ思したるを、いとめづらかなることに思し嘆くに、また姫君は、今よりいとさがなくて、をさをさうちにもものしたま  
はず、外にのみつとおはして、若き男ども、童などと、鞠、小弓などをのみもて遊びたまふ。御出居にも、人々参りて文作り笛吹き  
歌うたひなどするにも、走り出でたまひて、もろともに、人も教へきこへぬ琴笛の音もいみじう吹きたて弾き鳴らしたまふ。ものう  
ち誦じ歌うたひなどしたまふを、参りたまふ殿上人、上達部などはめでうつくしみきこえつつ、かたへは教へたてまつりて、この御

腹のをば姫君ときこえしは僻事なりけりなどぞ、皆思ひあへる。殿の見あひたまへる折こそ取りとどめても隠したまへ、人々の参る  
には、殿の御装束などしたまふほど、まづ走り出でたまひてかく馴れ遊びたまへば、なかなか制しきこえたまはねば、ただ若君との  
み思ひても興じうつくしみきこえあへるを、さ思はせてのみものしたまふ。御心のうちにぞ、いとあさましく、かへすがへす、  
とりかへばやと思されける。

注1、さるべきことども…男性に必要な教養など 2、御出居…客と対面する座敷

問一 傍線部一〜三の漢字の読みを現代仮名遣いで書け。(各一点)

問二 傍線部四〜六の語句の、本文中の意味を次の選択肢の中から一つずつ選べ。(各一点)

四、あさましき  
五、さらぬは  
六、さがなくて

問三 傍線部アの意味として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。(二点)

問四 傍線部イ〜エの敬語について、誰から誰への敬意を示すか。次の中から一つずつ選べ。(各完答二点)

問五 傍線部七を現代語訳せよ。その際、主語と「さ」の示す内容を明らかにして書け。(四点)

問六 傍線部八について、父殿がそのように思った理由を、二人の子の性質を踏まえて簡潔に書け。(五点)

問七 この作品と同ジャンルのものを、次の中から一つ選べ。(一点)

あ、伊勢物語 い、大和物語 う、栄花物語 え、梁塵秘抄 お、夜の寝覚